

# 低コスト再造林に向けたコンテナ苗の利用

林業研究部

## 1. 研究の背景

多くの人工林が利用期を迎えつつあり、主伐面積の増加が見込まれる。それに伴い再造林面積も増加することが想定されるが、林業従事者数は減少傾向であり、現行の作業体制では全ての植栽を完了することが困難な状況にある。そこで省力的な造林が可能で、植栽時期の分散化が図れるコンテナ苗の導入を推進する必要がある。

## 2. 研究成果の内容・普及のポイント

○時期別の活着状況 → 春や秋以外でも高い活着率

植栽時期	本数	生残	枯死	活着率
5月	50	47	3	94%
6月	40	39	1	98%
7月	49	49	0	100%
8月	48	45	3	94%
9月	49	49	0	100%
10月	46	44	2	96%
11月	48	47	1	98%
12月	47	44	3	94%
3月(裸苗)	47	47	0	100%

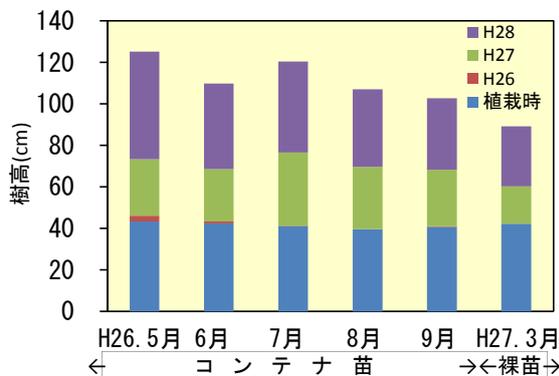
- ・ 5月～12月に植栽したコンテナ苗は、3月に植栽した裸苗と比べて同程度の活着率

↓

- ・ **植栽時期の分散が可能**

試験場所: 林業研究部内

○適期に植栽された裸苗より、それ以外の時期に植栽されたコンテナ苗の方が成長が旺盛



- ・ 植栽後3年目の樹高  
3月植栽裸苗 < 5～9月植栽コンテナ苗

↓

- ・ **植栽時期の分散を行う場合、5～9月はコンテナ苗を選択することが効果的**



試験場所: 扇山国有林(九重町大字田野)

## 3. 期待される効果

コンテナ苗の普及により、通常の植栽適期(春)以外での植栽が可能となるため、労務の分散が可能になることに加えて、伐採～植栽までを一体的に実施する「一貫作業システム」が可能となり、造林コストの低減に繋がる。

## 4. 担当機関連絡先

林業研究部 森林チーム  
TEL: 0973-23-2146  
住所: 日田市大字佐寺原35